

## 島根大学におけるロボット支援下直腸切除術の導入と短期成績

やまもと てつ たか い きよ え たに うら たか ひと  
山 本 徹 高 井 清 江 谷 浦 隆 仁  
いし とび かず なり いの うえ けい すけ ひ だか まさ あき  
石 飛 一 成 井 上 圭 亮 日 高 匡 章

キーワード：ロボット支援下手術，直腸癌，da Vinci Surgical System，ラーニングカーブ

### 要 旨

**目的：**ロボット支援直腸手術は，保険収載以降急速に増加している。当院では2019年に導入し60例強となったので，導入過程と短期成績について報告する。

**対象・方法：**2019年から2023年にロボット支援手術が行われた61例を対象とし，後方視的に患者背景，手術・短期成績について検討した。

**結果：**男女比42：19，年齢中央値は67歳であった。手術時間中央値は455分と長い傾向を認めたが，下部直腸例が46例で，術前治療は23例に実施されており難度の高い手術が多い傾向であった。Clavien-Dindo 分類Ⅲa以上の術後合併症は14.8%であったが，全例保存的加療により改善した。術後短期成績として，Stage III以下の3年全生存率87.0%，Stage II以下の3年無再発生存率は100%であった。

**結論：**ロボット支援下直腸手術は難度の高い症例に実施されていたにも関わらず，安全な導入が可能で，術後成績も良好であった。一方で，若手外科医の基礎技術修練のためには，適切な症例選択や指導法の確立が必要である。

### はじめに：

手術支援ロボットは，多関節鉗子やハイビジョン3次元画像，安定した術野，手振れ防止機能などの技術的優位性から導入施設は増加の一途を辿っている。本邦では2018年4月よりロボット支

援下直腸手術（以下，robotic-assisted rectal surgery：RARS）が保険収載となったが，当院では2019年からRARSを導入し，2023年時には60件を超える手術件数に至った。そこで，RARSの導入過程と短期成績について報告を行う。

### 対象と方法：

2019年1月から2023年9月までのロボット支援手術が行われた直腸癌症例61例を対象とし，後方